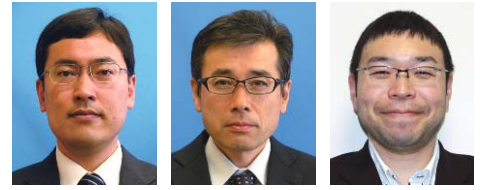


公共工事における総合評価落札方式(技術提案)に関する運用方法の改善方策



社会資本マネジメント研究センター 社会資本マネジメント研究室
 室長 小川 智弘 主任研究官 富澤 成実 研究官 大野 真希

(キーワード) 公共工事、入札・契約、総合評価落札方式、技術提案、テーマ

3.

生産性革命

1. はじめに

国土交通省直轄工事における総合評価落札方式は、2013年度から契約タイプを技術提案評価型(S型、A型)と施工能力評価型(I型、II型)に区分し運用を行っている。社会資本マネジメント研究室では、各地方整備局等の総合評価落札方式の実施状況を年次報告書として取りまめるとともに、運用上の課題等のフォローアップを実施している。技術提案評価型S型では、技術提案を求め企業の優れた技術力を活用し公共工事の品質をより高める事を期待しているが、技術提案の評価で1位同点者が複数発生し期待される効果が得られていない事が懸念される。そこで、発注者が設定する技術提案のテーマに着目した分析を行い、今後の運用方法の改善方策を検討した。

2. 技術提案の評価結果に関する分析

技術提案の評価点は、テーマ内容・評価基準・企業の技術力等の要因で決まる事から、一般に公表されるテーマに着目し分析を行った。なお、テーマは工事内容に応じて1~2の大テーマを設定し、1つの大テーマに対し5個提案を求める。そのため大テーマの下に具体的な小テーマを3~5個設定する事が多い。

分析にあたっては、大・小テーマを分類整理し、そのテーマに関する技術提案の評価結果を基に指標①(競争参加者に占める1位同点者の割合)、指標②(最高得点者と最低得点者の点差の傾き)を求め、テーマ毎に各指標の平均値を図にプロットし点差が付きにくいテーマを抽出する。(図-1)

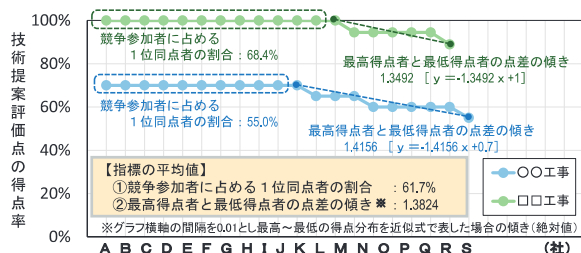


図-1 各指標の算出イメージ

きにくいテーマを抽出する。(図-1)

各地方整備局等で2013年度~2015年度に技術提案評価型S型で発注された工事を対象に分析した結果、PC(プレストレスト・コンクリート)工事では、PC桁の耐久性(緊張、グラウト充填)・床版の品質確保・安全施工対策が他のテーマに比べ点差が付きにくい事が分かった。

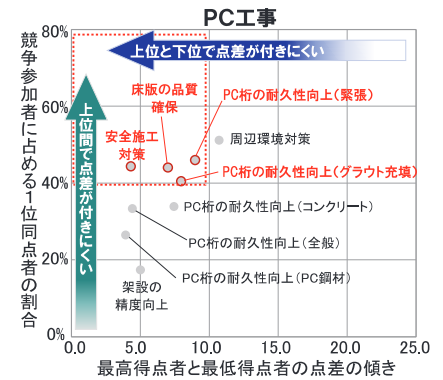


図-2 分析結果 (PC工事)

3. 技術提案評価型S型の改善方策

上記の分析を踏まえ、点差が付きにくいテーマに関しては、取組みスキーム(図-3)により技術提案の多様性や有効性を確認し、標準化や入札時の評価にフィードバックを行う事で、技術提案が活性化され、更なる公共工事の品質向上が期待される。

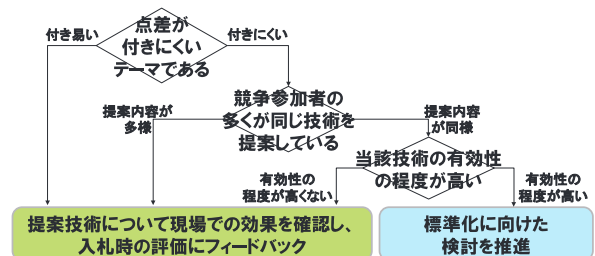


図-3 運用方法の改善に向けた取組みスキーム

4. 今後の予定

今後も総合評価落札方式の入札・契約状況等をフォローアップし効果検証を進める予定である。

【参考：関連するWEBサイトのURL】

社会資本マネジメント研究室のHPを参照

http://www.nilim.go.jp/lab/peg/sougou_hinkakukon.html#26.03